

HopStepJump 5

<https://toyono-jinjikyo.com/>授業づくり③
情報教育・ICT 機器を活用した
授業づくりについて

第4回初任者研修は、「情報教育・ICT機器を活用した授業づくり」というテーマで池田市教育センターの中野正敏指導主事に演習や交流を中心に講義をしていただきました。1人1台端末を「文房具の一つ」としてどのように授業の中で活用していくか、実際にグループごとの端末やアプリなどを活用しながら話し合いました。後半は模擬授業形式で中野先生にICT活用の具体的な実践例を提示していただき、児童生徒側の視点で授業づくりを考えることができました。(以下は振り返りシートの抜粋です。)

研修の中で実際にタブレットを使ってみて、学年に応じての課題はあるけれど、**いろいろ試行錯誤しながら使っていきたいと思いました。**できることから少しずつ使ってみる機会を増やして、まずは自分自身がタブレットに慣れていきたいです。

ICTを活用することは、生徒の交流の促進だけでなく考えの整理や部類分けなど様々な活動に活かせると思いました。常に新しいICTの活用法を模索し続け、**教員同士で共有しあうことで教科を越えたよりよい活用法を見つけられることができる**と思いました。

タブレットの活用に関する意見の中で「さびしい」と打っていたのを見て、イメージとして人と人のつながりが絶たれるのではないのかという考えから出た言葉なのかなと感じました。しかし、**タブレットの活かし方次第では子ども同士の関わりをより深めたり、感性を豊かにしたりすることもできるのだと学び取ることができました。**

ICT教育は「子どもたちの持っている感性を広げ、拾い上げていくことで創り出す授業」というお話を聞き、ずっと何かが入ってきたように感じました。タブレットなどを使う際にはルールづけが必要ではあるが、**情報活用能力は使わせない制御をして育むものではなく、使うことで力を育む**という言葉が印象的でした。

ICT機器を使うことを目的にはいけないと感じました。これまでの授業の中で手を挙げて発言するのが難しかった子の意見や時間等の都合で拾えなかった意見なども今回の研修で使ったようなツールですべて拾い上げることができたり、即時に共有できたりするのはとてもよいと思いました。

ICTを活用することによって多くの情報や意見を短時間で集約して共有することが大きなメリットだなと感じました。その一方で、**共有した後はどう発問して次の展開につなげ、終末にむかっていくのかは、やはり教員の力の見せどころであり、今後もっと磨いていきたい**と思いました。ICT活用の先行例を見て、今の環境の中でも取り組めるものはいくつかあると感じたので、自分の授業の中にも取り入れていきたいと思いました。今回の研修で「協働的な学び」を教員も体験することができました。

ICT機器を活用した授業をどのようにしていくのか悩んでいたのが有意義な時間になりました。個別最適化だけでなく、協働的な学びにつなげていくということが大切だと理解しました。**個人で得たものをまわりに伝えたり返したりしていくという根っこの部分はきっと今までと変わらない**と思いました。

私はICTに対してどこか冷たいイメージがありましたが、教育の本質はICT化が進んでも変わらないのだと分かりました。日々の授業が手一杯で、なかなか子どもたちがタブレットを活用した授業はできていませんでしたが、私が今関わっている子どもたちはこれからどんどんICTの波に乗っていかなくてはならないため、教師である自分が逃げていたら子どもたちのためにならないと思いました。今回学んだことをもとに、**自分の学校でどのようなことができるのか他の先生方に聞いてみたり、自分でも触れてみて活用法を考えたりしたい**と思いました。

豊能地区教職員人事協議会のめざす教職員像は、

「子どもとともに学び続ける教職員」

研修の内容や話題を校内の先輩方と話したり、研修で学んだことや気づいたことをヒントにして授業で試したりすることで、より深い学びにしていけます。

研修がお互いにとってよい「きっかけ」になるように受講者同士が所属の市や町を越えての交流を今後も大切にしてください。各々の視点での交流を通して初任者同士でも学びあい、刺激しあい、高めあいましょう！



また、研修の受講で大切なことは「主体性」です。「研修の手引（ピンク色の冊子）」の2ページには日時・場所とともに研修のテーマ・該当する指標（研修のねらい）の記載があります。研修受講前には必ず確認をして、ご自身の現状から課題をとらえるようにしましょう。そして、その課題を解決するきっかけやヒントを研修の中から見つけ出すようにしましょう。子どもたちにとっての授業と先生方にとっての研修は同じ学び方なのです。まずは、みなさん自身が学びのロールモデルとなることで、子どもたちにもよい影響をもたらしていきましょう！

以下は、研修通信③でもお伝えしましたが、好評につき「続編」として、例年寄せられる疑問や質問を中心にコラボ研修のポイントを紹介します。間近に迫ったコラボ研修の当日をイメージする一助としてください。



もっと！

コラボ研修 ~コラボ研修を「より深い学び」にするためのポイント~

Q. 模擬授業の中でパワーポイント等を使いたいのですが…（ICT活用について）

A. 原則、教室の電子黒板等は使用しません。また、児童生徒役も端末はありません。活用や提示をしたい場合は①個人の端末で提示する ②スライドを印刷して持参・配付する ③口頭で構想を紹介する などあくまで「模擬」で授業をしてください。研修での学びを2学期以降の実際の授業に活かしましょう。

Q. 黒板に「貼りもの」で提示をしたいのですが…（持参物について）

A. マストではありませんが必要に応じて持参することは可能です。負担のないようにご準備ください。また、模擬授業の中で提示や活用したい教具や具体物も同様です。個人のものではないものを持ち込む際には確認が必要です。チョーク・マグネット・黒板用定規などは教室にあるものを使用できます。

Q. 市町によって教科書の出版社が違うのでは…（必要に応じての配付や持参について）

A. 普段使っている教科書を持参することと、必要なページはコピーして班のメンバーに配付をすると、模擬授業中や事後協議がしやすくなります。教科書の違いからも教材研究・教材理解ができますよ。また、ワークシートやプリントなども必要に応じて班のメンバー分の配付をご準備ください。

Q. 児童生徒役はどうしたらよいのでしょうか？（授業者をする以外の時間の過ごし方）

A. 当日の大半は模擬授業の児童生徒役として過ごします。「今の指示や発問ならこう答えるかな」と、子どもになりきって参加することで、同じ初任者の授業者としての姿からも学べますよ。

Q. 授業内容の一部を省略することはできますか？（模擬授業の時間配分について）

A. 本来の授業ならかける時間（課題に取り組む、交流をする、準備をするなど）も、大人が相手で人数も少ないため、時間設定を短くすることは可能です。しかし、45分や50分の授業を20分に縮小しておこなったり、20分バージョン（もともとの授業時間が20分）にしたりというものではありません。

Q. 最後に何かアドバイスをください！（前日・当日の心得）

A. 前日は早めに寝ましょう。暑さも予想される中での終日研修です。また、基本の持ち物（名札、上靴、下靴を入れる袋、昼食、飲み物など）の準備も前もって確認してください。
当日の受付開始は9時、研修開始は9時半、トップバッターは9時40分くらいから模擬授業をおこないます。集合も時間に余裕をもって会場となる大阪教育大学附属池田小・中学校にお越しください。

みなさんにとって、**コラボ研修を「より深い学び」にするためのポイント**です！
よい研修になるように一緒に研修を創りましょう！！